

1

はじめに



昨年(令和3年)、「日本沈没」*1というドラマがテレビで放映されました。ドラマなので、当然フィクションです。ですが、もしかしたら、将来現実となるかもしれないとも思えるのです。11年前の東日本大震災では、海底プレートのひずみによって大地震と大津波が起きました。この震災によって、日本列島の地殻変動が活発になっているとも言われています。実際に、東日本大震災によって、牡鹿半島が東南東に5.3m移動しました。

そして、今年の1月にトンガで海底火山の噴火がありました。その影響で、地盤沈下が起こっています。日本列島の周りにも多くの海底火山が存在しますが、中でも、フィリピン海に大きな海底火山があり、それが噴火すると、南海トラフ以上の大津波が起こると危惧されています。もしも噴火が起こったら「日本列島沈没」は現実となってしまうかもしれません。ですが、地球の長い歴史の中で、このようなことが、ずっと繰り返されてきたのです。

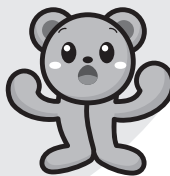
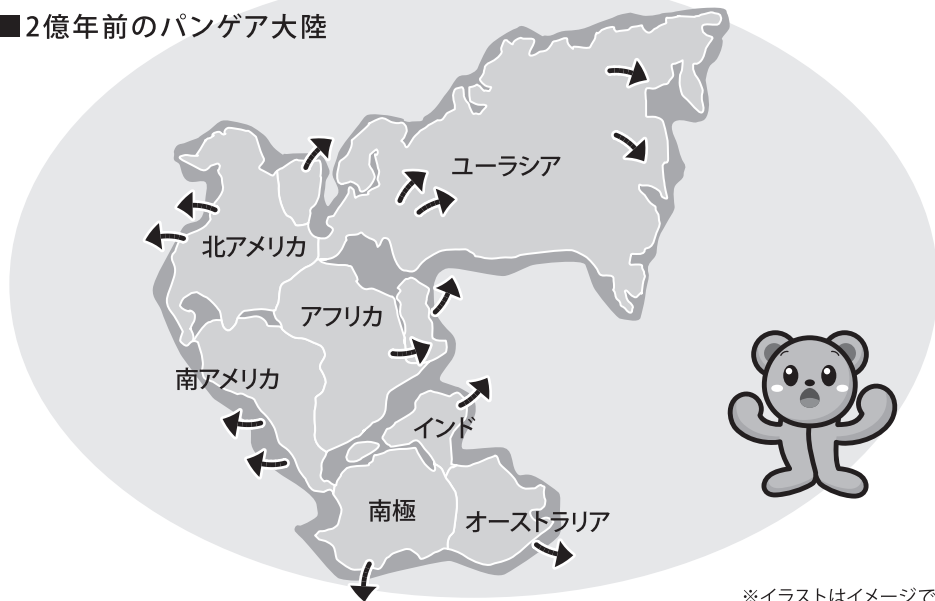
※1 日本沈没は、1973年に刊行された小松左京のSF小説。1973年と2006年には映画化、1974年と2021年にはテレビドラマ化されている。(ウィキペディアより)

2

地殻変動による日本列島の運命

2億年前まで大陸は繋がっていました(パンゲア大陸*2)が、プレートが移動することによって、大陸も移動しました。プレートはパズルのようになっています。日本列島は、ユーラシアプレート、北米プレート、フィリピン海プレート、そして太平洋プレートの上に位置しています。これらのプレートのずれで地震が起こるといふメカニズムは、皆さんご存じだと思いますが、個人的に驚いたのは、日本海溝に太平洋プレートが沈み込むことによって、将来的に(約5000万年後)ハワイ諸島が日本列島の下に沈むということです。

■2億年前のパンゲア大陸



※イラストはイメージです

※2 アジア・ヨーロッパ(ユーラシア)、アフリカ、南北アメリカ、インド、オーストラリア、南極の諸大陸が約2億年前に分裂し、移動を開始する前につけていたと考えられる超大陸。(ウィキペディアより)

会報・ホームページ委員 草嶋 里香子

特別企画 バックナンバーはコチラ



太平洋プレートが日本海溝に沈み込む速さは、年間約8cmから10cmです。国土地理院の「地殻変動情報表示サイト」というサイトで、日本国土のみですが、地殻変動をチェックすることが可能です。北海道や関東、関西は毎年少しずつ東に移動し、震災のあった東北は西に、九州南部と沖縄は南に移動しています。いずれ、北海道はユーラシア大陸と結合されるかもしれませんが。本州と九州はそれぞれ二つに分離するかもしれません。

地球上にある五大大陸は、かつては一つの大きな大陸でした。数億年ごとに、大陸が合体と分裂を繰り返してきました。そして、現在の6大陸もいずれ集合し、約2億〜3億年後には「超大陸」として合体するといわれています。大西洋は現在でも広がりがつつあり、北アメリカ大陸とユーラシア大陸、また南アメリカ大陸とアフリカ大陸は離れつつあります。太平洋が閉じてしまうことが考えられます。そうなった場合、日本列島は、ユーラシア大陸とアメリカ大陸とオーストラリア大陸に挟まれ、結合または消滅します。「日本沈没」とはまた違った結末です。

■現在の6大陸



③ 幻の大陸

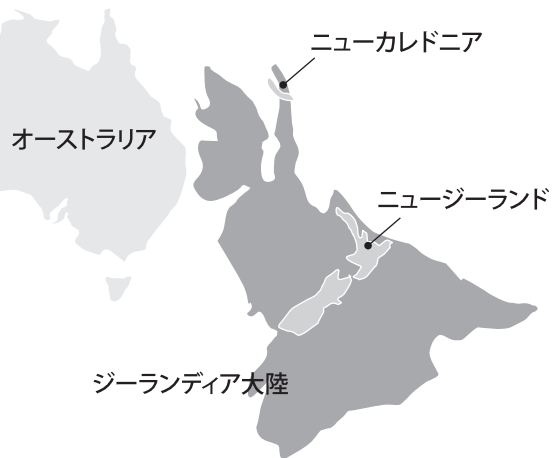


地殻変動の影響で、海に沈み込んで消滅した大陸がいくつかあります。中でもよく知られているのが「アトランティス大陸」※3と「ムー大陸」※4です。これらの大陸については実在していたのかわからず、ミステリーとなっています。一説には、「アトランティス大陸」は大西洋上に存在していたが、大洪水によって一夜にして滅亡したとされています。魔の海域と呼ばれる「バミューダ・トライアングル」の海底で、「クリスタルピラミッド」及び古代都市の跡が発見されましたが、この古代都市こそが「アトランティス大陸」の一部ではないかといわれています。

「ムー大陸」は太平洋上に存在していたが、海に沈んだとされています。ハワイ諸島やイースター島は沈没を免れた大陸の一部といわれています。

一方で、実際に海に沈んだとされる大陸は実在します。その一つが「ジーランディア大陸」です。「ジーランディア大陸」とは、オーストラリア東部からニュージーランドとその周辺を囲む大陸で、ニュージーランドは沈まず残った部分といわれています。「ジーランディア大陸」には、発掘された化石から、巨大なペンギンやオウムが生息していたことがわかっています。

■ジーランディア大陸



※3 アトランティス大陸とは、古代ギリシアの哲学者プラトンの著書『ティマイオス』及び『クリティアス』の中で記述された伝説上の広大な島、及びそこに繁栄したとされる帝国。プラトンの時代の9000年前に海中に没したと記述されている。(ウィキペディアより)

※4 ムー大陸とは、かつて太平洋の南中央部に存在したが天変地異により水没した、とされる大陸。現在では、複数の海底探査結果によってその存在は学術的に否定されている。(ウィキペディアより)

■ ジーランド大陸に生息していたオウムやペンギン



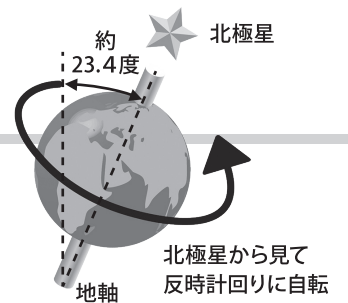
●日本人女性身長 約158cm
 ●オウム体長 約100cm
 ●ペンギン体長 約160cm
 ●たくまくん 約170cm

その他に、南ヨーロッパの下に沈み込んだことが明らかになった「大アドリア大陸」があります。沈み込んで海となった部分が「アドリア海」とされています。このように、沈んでしまった大陸や土地の話はまだあります。逆に、隆起した場所もあります。北海道に存在する「昭和山」は、麦畑が隆起してできた山です。最近では、小笠原諸島の西ノ島付近に「新島」が出現しました。海底火山の影響によるものです。遠い将来、日本列島が「幻の島」といわれるようになるのか、又は隆起活動が活発になることで、国土が拡大し、中国大陸や朝鮮半島と地続きになるかもしれないですね。というか、かつては地続きでしたので、(日本海は陸でした) ありえないことではありません。

更に、「南極大陸」には三つのピラミッドが存在します。グーグルアース^{※5}でも確認できます。南極大陸は、かつて赤道に近い南国であったが、現在の位置に移動したといわれています。南極のピラミッドは、大陸移動する前に建造され、世界で最も古い建造物ともいわれていますが、「あれはピラミッドではなく、山々だ。」という説もあり、真相はよくわかりません。

※5 Google Earthは、Googleがインターネットを前提として開発したバーチャル地球儀システムである。世界中の衛星写真を、まるで地球儀を回しているかのように閲覧することができる。(ウィキペディアより)

4 地球の現状と近い将来

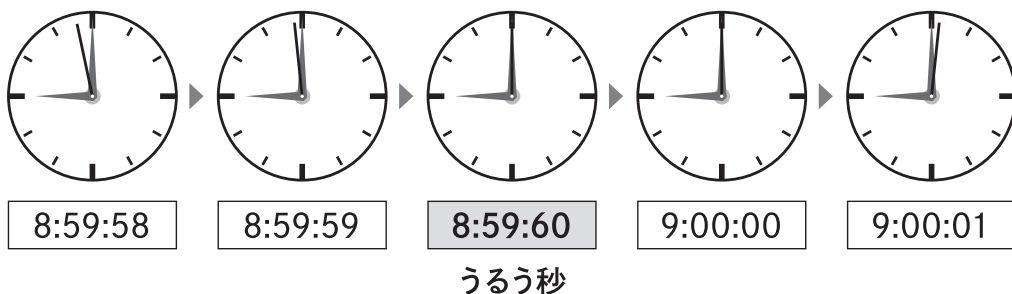


地球の自転やポールシフト^{※6} について知ることで、近い将来に大きな災害が起こるかもしれないと予想することができます。

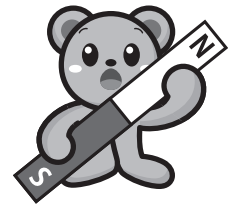
まずは、「地球の自転」です。地球は1日で1回転します。そのスピードは過去数十年間で減速しています。その誤差を調整するために、「うるう秒」^{※7}を追加し、4年に1度「うるう年」が存在します。しかし、2016年以来、「うるう秒」は追加されていません。どうということかという、地球の自転速度が速まってきているのです。2021年は、2020年よりも短かったことがわかっています。つまり、速くなっているのです。地球の核の部分が活発化しているから速くなっていると考えられます。

※6 田中芳樹の小説「七都市物語」、ジョン・アミエル監督の映画「ザ・コア」は、ポールシフトを題材としている。

※7 数年に1度、日本時間では9時00分00秒の1秒前に、8時59分60秒が入れられることがある。この8時59分60秒のことを「うるう秒」という。(ウィキペディアより)



そして、「ポールシフト」についてです。「ポールシフト」には、2つの意味があります。その1つは地軸のS極とN極が入れ替わること（地磁気反転）と、もう1つは地軸そのものがズレルことです。前者の「地磁気」については、ここ最近弱まっているのがわかっています。弱まっていった結果、「地磁気の逆転」が起こるとされています。地磁気が逆転するということは、北極点と南極点が逆になり、様々な生態系に影響を及ぼします。人間にとっては、発電所が作動しなくなりますので、生活に重要な影響を及ぼします。そして、後者の「地軸のズレ」ですが、「地軸の傾き」についてです。地球が傾く角度は、約23.4度です。この傾きが無ければ、昼と夜は全く同じ12時間ずつとなり、中緯度地域では四季の変化が消滅します。その傾く角度が近年変化してきています。実際に地球の傾きは4万年周期で、22度から24.5度で変化しますので、特に異常なことではないように思えます。しかし、気候変動や地震の影響で角度の変化が生じることもわかっていますので、この先例えば、30度以上傾くことになったら、又は傾く周期が短くなったらどうなるのでしょうか。ある地域では年中灼熱の暑さが続き、また、ある地域では氷河期のように年中太陽光もなく寒さが続くことになるのです。恐竜が滅亡した原因である氷河期は、ポールシフトによって起こされたと考えられます。



5 おわりに

地球は今後も様々な変貌を遂げて、最終的には、地球上の全ての生物が滅亡するといわれています。まさに、現在、地球は活動期に入っていると思われます。近い将来、世界のあちこちで災害等が起きるかもしれません。それは、地球の変貌が周期的に起こっていることなので、「為す術なし」のように感じます。しかし、人類を含む生物は、これまで環境に順応してきました。恐竜は絶滅したといわれていますが、恐竜の中でも、鳥類や他の生物に姿を変えた種類がいるという説もあります。もしかしたら、人類も環境に順応するために変化していくかもしれないのです。それは、外観的にかもしれませんし、身体の中の機能等が今とは違う作りになるかもしれませんね。